

探究の手引き

令和 7 年度版

(令和 6 年度実施)

兵庫県立龍野高等学校

企画広報部

目次

1	普通科探究年間指導計画・・・・・・・・・・	1
2	令和6年度概要・・・・・・・・・・	2
3	令和6年度指導計画・・・・・・・・・・	3
4	令和6年度探究活動の成果・・・・・・・・	11
5	未来をつくる創造力アンケート・・・・・・・・	12
6	令和6年度探究ワークシート・・・・・・・・	13

1 普通科探究年間計画

兵庫県立龍野高等学校では「総合的な探究の時間」（１～３年）を「探究Ⅰ」「探究Ⅱ」「探究Ⅲ」と名称を変更して実施している。

	前期	後期
探究Ⅰ	『オリエンテーション』 探究活動のイメージをもつ 『探究活動の手法』 探究を行う上でのルールや手法を理解する 『探究活動①』 探究活動の方法を具体事例から学習する	『探究活動②』 前期で学んだ探究の手法を用いて、ポスター作成・練習を行う 『研究発表会』 ポスター発表を行い、自身の探究活動の振り返りを行う
探究Ⅱ	『オリエンテーション』 探究Ⅰでの学びを振り返り、カテゴリを設定し、その中からテーマを設定する 『探究活動①』 仮説を設定し、情報を収集、検証・結果・考察等を行う	『探究活動②』 前期で探究した内容について発表資料（口頭）を作成し、練習を行う 『研究発表会』 口頭発表を行い、自身の探究活動の振り返りを行う
探究Ⅲ	『日本語論文作成』 これまでの探究活動を日本語論文としてまとめる 『探究活動の振り返り』 探究活動と自己との関わりを改めて捉え直す	『よりよい課題解決の方法』 自己に関わるさまざまな課題に目を向け、よりよい課題解決の方法を探る

2 令和6年度概要

1. 概要

本校普通科生徒を対象に「総合的な探究の時間」を用いて探究活動を進めている。

各学年1単位で3年間3単位を用いて、1・2年生で個人での研究をおこなう。3年生では2年生での実施内容を論文にまとめることを通して、「課題を発見する発想力」、「研究を深化させる思考力」、「成果を広げる発信力」、「他者を理解する共感力」で構成される「未来をつくる創造力」の育成をおこなう。

2. 探究Ⅰ（1年生）

6つのカテゴリに分かれて、個人で研究をおこない、最後にポスター形式での発表をおこなう。

生徒の興味・関心に応じた6つの分野を設定したが、生徒の希望する分野に偏りがあったため、本年度は内容の近い分野7つのグループに分けて活動した。

＜カテゴリ＞①国際・文化・スポーツ、②法・政治・経済、③情報・科学技術、

④医療・保健、⑤社会・環境・教育、⑥地域創生

＜グループ＞1：国際・文化・スポーツ A 2：国際・文化・スポーツ B 3：法・政治・経済

4：情報・科学技術 5：医療・保健 6：社会・環境・教育 7：地域創生

＜講演会等＞4月30日（火）7校時 探究Ⅲ発表会兼探究Ⅰオリエンテーション

指導助言 甲南大学 全学教育推進機構 全学共通教育センター

准教授 千葉 美保子 様

5月7日（火）7校時 探究活動のオリエンテーション（企画広報部）

＜外部発表＞2月8日（土）兵庫県高等学校探究活動研究会 ポスター発表1件

3. 探究Ⅱ（2年生）

6つのカテゴリに分かれ、個人で研究を進め、最後にプレゼンテーションソフトを用いた発表をおこなう。

＜カテゴリ＞①国際・文化・スポーツ、②法・政治・経済、③情報・科学技術、

④医療・保健、⑤社会・環境・教育、⑥地域創生

＜講演会等＞4月16日（火）7校時 探究活動のオリエンテーション（企画広報部）

4月23日（火）7校時 講演会『課題研究の進め方について』

講師 甲南大学 全学教育推進機構 全学共通教育センター

准教授 千葉 美保子 様

9月17日（火）7校時 講演会『研究結果の発表方法について』

講師 甲南大学 全学教育推進機構 全学共通教育センター

准教授 千葉 美保子 様

＜外部発表＞12月15日（土）甲南大学リサーチフェスタ2024 オンライン口頭発表5件

2月2日（日）兵庫県立大学環境人間学部高校生プレゼンフォーラム 口頭発表3件

4. 探究Ⅲ（3年生）

2年時に取り組んだ内容の研究を、日本語論文にまとめる。

＜講演会等＞4月30日（火）7校時 探究Ⅲ発表会兼探究Ⅰオリエンテーション

指導助言 甲南大学 全学教育推進機構 全学共通教育センター

准教授 千葉 美保子 様

5. 探究Ⅰ・Ⅱ最終発表会（1・2年生）

＜日程＞ 1月21日（火） 6・7校時

内 容 各カテゴリ代表者の発表（2・1年）、各グループ代表班のポスター掲示（1年）

アドバイザー 甲南大学 全学教育推進機構共通教育センター准教授 千葉 美保子 様

たつの市役所 企画財政部企画課主査 沖田 順 様

株式会社ダイセル 事業創出本部事業創出センター主任研究員 池田 大次 様

兵庫県立龍野高等学校 「総合的な探究の時間」 指導計画

1 全体計画

実施年度		令和6年度
教育課程表上の名称		探究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
学校教育目標		確かな学力と豊かな感性・人間性、高い志を持つ人材の育成
総合的な探究の時間の目標		探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な探究を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。
育成を目指す資質・能力	知識及び技能	課題の発見と解決に必要な基本的知識・技能を身につける。
	思考力、判断力、表現力等	実社会や実生活との関りから問いを見出し、課題を立て、情報収集し整理・分析してまとめ・表現することができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に課題に取り組む態度を養う。
科目目標	探究Ⅰ	実社会や実生活と自己との関りからテーマを自ら見出し、個人もしくはグループで探究活動を実施する。たつの市と連携し、市の課題についての探究活動も実施する。 テーマ設定、研究手法（仮説立案・情報収集・検証・結果・考察等）、発表資料（スライドもしくはポスター）作成を通して、課題を発見し解決していくための基本的な資質や能力を育成すると共に、協働的に課題に取り組む態度を身につける。さらに、学んだ内容を進路選択につなげる。
	探究Ⅱ	探究Ⅰの内容をふまえ、実社会や実生活と自己との関りからテーマを自ら見出し、個人で探究活動を実施する。防災グループと地域グループは、たつの市と連携し、探究活動を実施する。 テーマ設定、研究手法、発表資料（スライド）作成に至るまで、自己の力で問題解決することで、一人ひとりの主体的、創造的に取り組む態度の伸長を図る。
	探究Ⅲ	探究Ⅰ、Ⅱの内容をふまえ、個人での探究活動を実施する。 他者との討論、論文作成を通して、論理的に物事を考え表現し、事象を科学的にとらえる力を身につける。さらに、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すると共に、よりよい社会を実現できる人材を育成する。
学習活動の在り方		学びに連続性を持たせ、3年間で学習成果を積み上げることができる指導計画を作成。 専門家による講演の場を積極的に設定し、学習活動内容を明確化し「生徒の探究心」の伸長を図る。

指導方法及び指導体制	探究Ⅰ 現代社会で話題となっているテーマに分かれ、個人もしくはグループで探究活動実施。最終的にポスターを作成・発表を行う。 学年教員 9 名で担当。副主任・副担任は学年探究係。 探究Ⅱ 現代社会で話題となっているテーマから、興味・関心に応じたカテゴリーに分かれ、個人で探究活動実施。最終的にスライドを作成・発表を行う。 学年 9 名+11 名の合計 20 名で担当する。副主任・副担任は学年探究係。＊各教室 3 名を配置。 探究Ⅲ 現代社会で話題となっているテーマから、興味・関心に応じたカテゴリーに分かれ、個人で探究活動実施。探究Ⅱで作成したスライドを元に論文を作成する。 学年教員 9 名で担当する。副主任・副担任は学年探究係。								
評価の観点の趣旨	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="485 784 686 833">評価の観点</th><th data-bbox="692 784 1353 833">評価の観点の趣旨</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="485 842 686 972">a 知識及び技能</td><td data-bbox="692 842 1353 972">探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。</td></tr> <tr> <td data-bbox="485 981 686 1111">b 思考力・判断力・表現力</td><td data-bbox="692 981 1353 1111">実社会や実生活と自己との関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</td></tr> <tr> <td data-bbox="485 1120 686 1312">c 主体的に学習に取り組む態度</td><td data-bbox="692 1120 1353 1312">探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度が身に付いている。</td></tr> </tbody> </table>	評価の観点	評価の観点の趣旨	a 知識及び技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度が身に付いている。
評価の観点	評価の観点の趣旨								
a 知識及び技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。								
b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。								
c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度が身に付いている。								

2 第1学年（探究Ⅰ）の年間指導計画

探究Ⅰ課題	6領域（国際・文化・スポーツ、法・政治・経済、情報・科学技術、医療・保健、社会・環境・教育、地域創生）のカテゴリに分かれ活動。								
履修単位数	1単位（35時間）								
教育課程実施に係る位置付け	☒ 時間割に位置付けて実施 ☐ 時間割に位置付けるとともにある時期に集中して実施 （集中して実施する時期： ）								
評価の観点の趣旨	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th><th>評価の観点の趣旨</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a 知識及び技能</td><td>実社会や実生活における諸課題について理解を深めるとともに、探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につける。</td></tr> <tr> <td>b 思考力・判断力・表現力</td><td>実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、グループで課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ、最終的にはポスター作成を通して成果を表現することができる。</td></tr> <tr> <td>c 主体的に学習に取り組む態度</td><td>探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、より豊かな生活を実現しようとする態度を身に付ける。</td></tr> </tbody> </table>	評価の観点	評価の観点の趣旨	a 知識及び技能	実社会や実生活における諸課題について理解を深めるとともに、探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につける。	b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、グループで課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ、最終的にはポスター作成を通して成果を表現することができる。	c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、より豊かな生活を実現しようとする態度を身に付ける。
評価の観点	評価の観点の趣旨								
a 知識及び技能	実社会や実生活における諸課題について理解を深めるとともに、探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につける。								
b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、グループで課題を立て、情報を集め、整理・分析し、まとめ、最終的にはポスター作成を通して成果を表現することができる。								
c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、より豊かな生活を実現しようとする態度を身に付ける。								

時	指導項目	評価の観点			主な学習活動	評価基準
		a	b	c		
1、2	探究Ⅰ概要	○	○	○	概要説明会等を通して、6グループから領域を選択し、研究課題を考える。	a 探究活動の課題設定と解決に必要な知識・技能を身に付けている。 b 班で設定したテーマから課題を見出し、探究活動の概要について計画を立案できる。 c 課題の設定や探究活動計画立案に主体的・協働的に取り組んでいる。
3	探究活動の手法	○	○	○	探究活動を行うに当たり、その方法を具体事例から学習し、課題研究の見通しをもつ。	a 探究活動を行うために必要な知識・技能を身に付けている。 b 課題に応じた様々な手法があることを理解し、その中から班の研究に必要な手法を選択できる。 c 探究活動の手法を学ぶことに主体的・協働的に取り組んでいる。

4 ～ 9	探究活動	○	○	○	班で設定した研究課題に対して、情報収集、整理分析、発表準備に取り組む。 書籍・インターネット検索、アンケート調査、インタビュー取材、仮説検証のための実験等の研究活動実施。 内容を分析し、考察を行う。 発表用資料（ポスター）を作成する。	a 探究活動を行うために必要な情報収集、整理分析、発表についての知識・技能を身に付けている。 b 研究活動から得られた結果を適切に整理分析し、思考・判断・表現することができる。 c 情報収集、整理分析、発表に主体的・協働的に取り組んでいる。
12 ～ 15	研究成果発表	○	○	○	探究活動の成果を発表する。	a 探究活動の成果をまとめ、発表するために必要な知識・技能を身に付けている。 b 探究活動の成果を適切に表現し、正確に伝えることができる。 c 探究活動の成果発表に主体的・協働的に取り組んでいる。
16 ～ 18	ふりかえり	○	○	○	班の探究活動をふりかえり、次年度に繋がるように内容について検証する。	a 次年度作成する発表資料（スライド）に必要な知識・技能を身に付ける。 b 探究活動の成果をふりかえり、学んだことを再構築し、進路選択につなげる。 c 次年度作成する発表資料（スライド）の案づくりに主体的・協働的に取り組んでいる。

3 第2学年（探究Ⅱ）の年間指導計画

探究Ⅱ課題	6領域（国際・文化・スポーツ、法・政治・経済、情報・科学技術、医療・保健、社会・環境・教育、地域創生）のカテゴリに分かれ活動。								
履修単位数	1単位（35時間）								
教育課程実施に係る位置付け	☒ 時間割に位置付けて実施 ☐ 時間割に位置付けるとともにある時期に集中して実施 （集中して実施する時期： ）								
評価の観点の趣旨	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th><th>評価の観点の趣旨</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a 知識及び技能</td><td>実社会や実生活における諸課題について理解を深めるとともに、探究課題の解決に向け様々な研究手法や情報を整理・収集する技術を身につける。</td></tr> <tr> <td>b 思考力・判断力・表現力</td><td>実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、個人で課題を立て、多面的・多角的な視点から物事を考え、仮説を立て、論理的な分析方法に基づきまとめ、最終的にはスライド作成を通して成果を表現することができる。</td></tr> <tr> <td>c 主体的に学習に取り組む態度</td><td>探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自己と社会とのつながりを意識したうえで、地域に貢献しようとする態度を身に付ける。</td></tr> </tbody> </table>	評価の観点	評価の観点の趣旨	a 知識及び技能	実社会や実生活における諸課題について理解を深めるとともに、探究課題の解決に向け様々な研究手法や情報を整理・収集する技術を身につける。	b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、個人で課題を立て、多面的・多角的な視点から物事を考え、仮説を立て、論理的な分析方法に基づきまとめ、最終的にはスライド作成を通して成果を表現することができる。	c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自己と社会とのつながりを意識したうえで、地域に貢献しようとする態度を身に付ける。
評価の観点	評価の観点の趣旨								
a 知識及び技能	実社会や実生活における諸課題について理解を深めるとともに、探究課題の解決に向け様々な研究手法や情報を整理・収集する技術を身につける。								
b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、個人で課題を立て、多面的・多角的な視点から物事を考え、仮説を立て、論理的な分析方法に基づきまとめ、最終的にはスライド作成を通して成果を表現することができる。								
c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自己と社会とのつながりを意識したうえで、地域に貢献しようとする態度を身に付ける。								

時	指導項目	評価の観点			主な学習活動	評価基準
		a	b	c		
1、2	探究Ⅱ概要	○	○	○	概要説明会等を通して、6領域から領域を選択し、研究課題を考える。	a 探究活動の課題設定と解決に必要な知識・技能を身に付けている。 b 自身が設定したテーマから課題を見出し、探究活動の概要について計画を立案できる。 c 課題の設定や探究活動計画立案に主体的・協働的に取り組んでいる。
3	探究活動の手法	○	○	○	探究活動を行うに当たり、その方法を具体事例から学習し、課題研究の見通しをもつ。	a 探究活動を行うために必要な知識・技能を身に付けている。 b 課題に応じた様々な手法があることを理解し、その中から自身の研究に必要な手法を選択できる。 c 探究活動の手法を学ぶことに主体的・協働的に取り組んでいる。

4 ～ 11	探究活動	○	○	○	自身で設定した研究課題に対して、情報収集、整理分析、発表準備に取り組む。 書籍・インターネット検索、アンケート調査、インタビュー取材、仮説検証のための実験等の研究活動実施。 内容を分析し、考察を行う。 発表用資料（スライド）を作成する。	a 探究活動を行うために必要な情報収集、整理分析、発表についての知識・技能を身に付けている。 b 研究活動から得られた結果を適切に整理分析し、思考・判断・表現することができる。 c 情報収集、整理分析、発表に主体的・協働的に取り組んでいる。
12 ～ 15	研究成果発表	○	○	○	探究活動の成果を発表する。 まず、カテゴリー内で全員が発表し、優秀者（各カテゴリー1名程度）が全体の前で発表する。	a 探究活動の成果をまとめ、発表するために必要な知識・技能を身に付けている。 b 探究活動の成果を適切に表現し、正確に伝えることができる。 c 探究活動の成果発表に主体的・協働的に取り組んでいる。
16 ～ 18	ふりかえり	○	○	○	自身の探究活動をふりかえり、次年度作成する論文に繋がるように内容検討を行う。	a 次年度作成する論文作成に必要な知識・技能を身に付ける。 b 探究活動の成果をふりかえり、学んだことを再構築する。 c 次年度作成する論文の構成について主体的・協働的に取り組んでいる。

4 第3学年（探究Ⅲ）の年間指導計画

探究Ⅲ課題	6領域（国際・文化・スポーツ、法・政治・経済、情報・科学技術、医療・保健、防災、地域創生）のカテゴリに分かれ活動。								
履修単位数	1単位（35時間）								
教育課程実施に係る位置付け	☒ 時間割に位置付けて実施 ☐ 時間割に位置付けるとともにある時期に集中して実施 （集中して実施する時期： ）								
評価の観点の趣旨	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th><th>評価の観点の趣旨</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a 知識及び技能</td><td>探究の意義や価値を理解するとともに、探究課題の解決に向け様々な研究手法や情報を多面的・多角的な視点から整理・収集する技術を身につける。</td></tr> <tr> <td>b 思考力・判断力・表現力</td><td>実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、個人で課題を立て、多面的・多角的な視点から物事を考え、仮説を立て、論理的な分析方法に基づきまとめ、最終的には論文作成を通して成果を表現することができる。</td></tr> <tr> <td>c 主体的に学習に取り組む態度</td><td>探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自己と社会とのつながりを意識したうえで、よりよい社会を切り拓こうとする態度を身に付ける。</td></tr> </tbody> </table>	評価の観点	評価の観点の趣旨	a 知識及び技能	探究の意義や価値を理解するとともに、探究課題の解決に向け様々な研究手法や情報を多面的・多角的な視点から整理・収集する技術を身につける。	b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、個人で課題を立て、多面的・多角的な視点から物事を考え、仮説を立て、論理的な分析方法に基づきまとめ、最終的には論文作成を通して成果を表現することができる。	c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自己と社会とのつながりを意識したうえで、よりよい社会を切り拓こうとする態度を身に付ける。
評価の観点	評価の観点の趣旨								
a 知識及び技能	探究の意義や価値を理解するとともに、探究課題の解決に向け様々な研究手法や情報を多面的・多角的な視点から整理・収集する技術を身につける。								
b 思考力・判断力・表現力	実社会や実生活と自己との関りから問いを見出し、個人で課題を立て、多面的・多角的な視点から物事を考え、仮説を立て、論理的な分析方法に基づきまとめ、最終的には論文作成を通して成果を表現することができる。								
c 主体的に学習に取り組む態度	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、自己と社会とのつながりを意識したうえで、よりよい社会を切り拓こうとする態度を身に付ける。								

時	指導項目	評価の観点			主な学習活動	評価基準
		a	b	c		
1、2	探究活動	○	○	○	自身で設定した研究課題に対して、情報収集、整理分析、発表準備に取り組む。 書籍・インターネット検索、アンケート調査、インタビュー取材、仮説検証のための実験等の研究活動実施。 内容を分析し、考察を行う。 論文を作成する。	a 探究活動を行うために必要な情報収集、整理分析、発表についての知識・技能を身に付けている。 b 研究活動から得られた結果を適切に整理分析し、思考・判断・表現することができる。 c 情報収集、整理分析、発表に主体的・協働的に取り組んでいる。
3	研究成果発表	○	○	○	探究活動の成果を発表する。	a 探究活動の成果をまとめ、発表するために必要な知識・技能を身に付けている。 b 探究活動の成果を適切に表現し、

					正確に伝えることができる。 c 探究活動の成果発表に主体的・協働的に取り組んでいる。
4 ～ 11	ふりかえり		○	○	自身の探究活動をふりかえり、進路に繋げる。 b 探究活動の過程と成果をふりかえり、学んだことを再構築するとともに、自身の進路に直結する場面でそれらを他者にうまく表現できるようにする。 c 自身の探究活動のふりかえりについて主体的・協働的に取り組んでいる。

4 令和6年度探究活動の成果

1 探究Ⅰ

(1) ねらい

テーマ設定、研究手法（仮説立案・情報収集・検証・結果・考察等）、発表（資料作成・練習を含む）等の探究の基礎的な手法を学習する機会を設定する。また、自己と関わる様々なテーマに目を向けさせることで、特に発想力に重点をおいた未来をつくる創造力を生徒自ら高められるようにする。

(2) 研究開発方法・検証

未来をつくる創造力 アンケート【p.12 参考】を実施し、未来をつくる創造力の育成について評価・検証を行った。また、生徒の活動の記録から本事業の評価・検証を行った。

	令和6年度	
	9月	1月
発想力	2.5	2.7
思考力	2.6	2.4
発信力	2.6	2.7
共感力	2.7	2.6

2 探究Ⅱ

(1) 仮説・ねらい

探究Ⅰでの学びをもとに、1年間の実践的な探究活動を行うことで、自ら課題を見つけ、その課題を解決するための探究の方法を習得させる。自身の探究活動を振り返る機会を設定することで、特に思考力に重点をおいた未来をつくる創造力を生徒自ら高められるようにする。

(2) 研究開発方法・検証

未来をつくる創造力 アンケート【p.12 参考】を実施し、未来をつくる創造力の育成について評価・検証を行った。また、生徒の活動の記録から本事業の評価・検証を行った。

	令和6年度	
	9月	1月
発想力	2.8	3.2
思考力	2.7	3.2
発信力	2.8	3.2
共感力	2.9	3.2

3 探究Ⅲ

(1) 仮説・ねらい

探究Ⅱまでの学びをもとに、自身の探究活動を論文にまとめることで、論理的に物事を考えて表現する力を身につけさせる。また、これまでの探究活動を振り返り、他の課題についてもよりよく解決するための方法を考え、発表する。これらの活動を通して、特に発信力・共感力に重点をおいた未来をつくる創造力を生徒自ら高められるようにする。

(2) 研究開発方法・検証

未来をつくる創造力 アンケート【p.12 参考】を実施し、未来をつくる創造力の育成について評価・検証を行った。また、生徒の活動の記録から本事業の評価・検証を行った。発信力・共感力の優位性は見られなかった。

	令和6年度	
	12月	
発想力	3.3	
思考力	3.3	
発信力	3.3	
共感力	3.3	

5 未来をつくる創造力アンケート

本校ではSSH事業と連動して、探究活動時に生徒に身につけさせたい力がどれほど身についたかを未来をつくる創造力アンケートにより評価を行った。

未来をつくる創造力	観点・レベル	1	2	3	4	5
		1年生	2年生	3年生		
課題を発見する「発想力」	科学的に探究可能な課題を発見し、研究する力	研究課題の設定が表面的であり、具体的な研究仮説になっていない。	やや深まった研究課題を設定しているが、仮説がやや的外れである。	部分的に科学的に検証可能な研究課題を設定し、仮説を立てて研究に取り組んでいる。	全体を通して科学的に検証可能な研究課題を設定し、仮説を立てて研究に取り組んでいる。	全体を通して科学的に検証可能な研究課題を設定し、先行研究・既存知識等をふまえて仮説を立てて研究に取り組んでいる。
		例：研究テーマを見つけ、「問い」を立てることができる。	例：研究テーマに関する知識や理解を広げ、研究で明らかにしたい「問い＝リサーチクエスション」を立てることができる。	例：リサーチクエスションに対する「予想される仮の答え＝仮説」を立てることができる。	例：仮説を検証するのに「適切な研究方法を挙げ」て、研究に取り組むことができる。	例：仮説を検証するのに「必要な科学的根拠（先行研究等）を挙げ」、研究に取り組むことができる。
研究を深化させる「思考力」	科学的に試行錯誤し、課題を解決する力	データを分析する方法が分かっていない。データや資料に基づいた科学的な考察ができていない。	データを分析しようとしているが、データを記録するにとどまっている。データや資料に基づいたやや深まった科学的な考察をしているが、まだ主観的である。	データを分析し調査の目的に応じデータを整理できている。部分的にデータや資料に基づいた科学的な考察をしている。	データを適切な証拠として利用できるように処理し、分析している。データや資料に基づいて科学的な考察ができています。	データを適切な証拠として利用できるように処理し、的確に分析している。データや資料に基づいて科学的な考察ができており、適切に表現できている。
		例：得られたデータをまとめることができない。	例：得られたデータをまとめることができる。	例：得られたデータを表やグラフで示し、それを説明できる。	例：得られたデータを示した表やグラフを科学的な根拠にして、研究に取り組むことができる。	例：得られたデータを示した表やグラフを科学的な根拠にして研究に取り組み、その分析結果をもとに研究を進められる。
成果を拡げる「発信力」	研究で得られた成果を世界により広く発信する力	研究成果の発信が他者に伝わる表現でない。	研究成果の発信がやや他者に伝わる表現である。	研究成果の発信が他者に伝わる表現である。	研究成果の発信が他者に的確に伝わる表現である。	研究成果の発信が他者に的確に伝わり、興味深く魅力的な表現である。
		例：研究の成果をまとめられない。	例：研究の成果を資料にまとめられる。	例：研究の成果を資料にまとめられ、発表できる。	例：研究の成果を見やすい資料にまとめられ、相手に合わせて発表できる。	例：研究の成果を見やすい資料にまとめられ、ジェスチャー等を交えながら相手に合わせて発表できる（質疑応答も含む）。
他者を理解する「共感力」	多様な意見を尊重しつつ、自分の考えをまとめる力	議論の場で、自身と異なる意見に尊重しようとしていない。	議論の場で、自身と異なる意見にも尊重しようとしている。	議論の場で、自身と異なる意見に尊重している。	自身と異なる意見にも尊重し、自身の研究に取り入れている。	自身と異なる意見にも尊重し、必要に応じて自身の研究に取り入れ、深化させることができる。
		例：他者の発表に対して質問したり、自身の発表への質疑に応じたりすることができない。	例：場当たりに、他者の発表に対して質問したり、自身の発表への質疑に応じたりすることができる。	例：準備をした上で、他者の発表に対して質問したり、自身の発表への質疑に応じたりすることができる。	例：他者の発表の良いところや、自身の発表への意見を踏まえて研究を進めることができる。	例：自身の発表への意見を分析し、具体的な計画を立てて、研究を進め、改善できている。

1 研究テーマを決めよう

1-1 キーワードを記録しよう（課題研究メソッド p. 25）

① 印象に残った言葉やよく目にする言葉を記録しよう

○Question 探究しようと思ったことは何ですか（どんなテーマにしたいですか）〔5 分〕。

○Share なぜ興味をもったのか，どんなところに興味をもったのか，ペアで意見を交換してみよう〔3 分〕。

○Search 興味をもった内容からキーワードを選び出し，下に箇条書きしてみよう〔5 分〕。

キーワードとは（課題研究メソッド p. 25）

- ・内容を理解する際に欠かせない言葉。
- ・くり返し使われている言葉。

☆課題研究メソッド p. 25 の例を参考にしてみよう

○Practice 次の文章からキーワードを選び出し，次の 3 点について分類してみよう〔6 分〕。

ある地域では産婦人科医の不足が深刻化しており，救急医療体制が逼迫している。医療資源は有限であることから，緊急時には医療トリアージの必要性が危惧されている。特に地域医療においては予断を許さない状況にあることから，医療施設の確保や医師の多忙化を防ぐ取り組みが必要だと考えられている。

わからない言葉	意味はわかるが具体的に説明できない言葉	文章中でもっとも重要だと思う言葉
〔例〕 医療トリアージ	〔例〕 地域医療，医療資源	〔例〕 産婦人科医の不足，医療施設の確保，医師の多忙化

1-2 キーワードをもとに，情報を集めよう（課題研究メソッド p. 26）

○Question 日常的にどのような情報源から情報を収集していますか（利用しているものに○をつけましょう）〔1 分〕。

新聞・インターネット・本・雑誌・TV・講演・学術書など・その他（ ）

○Share 日ごろ利用している情報サイトなどを，記入してグループで共有しよう〔4 分〕。

情報サイト	目的
〔例〕 YAHOO! JAPAN	情報検索，時事ニュース閲覧

2 思考ツールで研究テーマに関する知識を広げ、整理しよう

マンダラートを作成してみよう（課題研究メソッド p.39）

[残りの時間]

- 1 研究テーマに関する、もっとも重要なキーワードを真ん中（①）に書き込む。
- 2 ①の周りの8マス（②～⑨）に、①に関連する言葉を書き込む。
- 3 周りの②～⑨にも同じ言葉を書き込む。
- 4 ②～⑨に関連する言葉をそれぞれ周りのマスに書き込む。

	②			③			④	
			②	③	④			
	⑤		⑤	①	⑥		⑥	
			⑦	⑧	⑨			
	⑦			⑧			⑨	

マンダラートはマスを埋めることが目的ではありません。目的は関連する言葉を大まかな整理ですので、多少の重複や空欄があっても大丈夫です！

研究テーマ
研究テーマに対する調べ学習
【基本的な知識や概念】
【気になるフレーズやワード】（できるだけ多く書き出してみよう）
関連するキーワード（特に重要なものを5つ程度）
・
・
・
・
・

1 リサーチクエスチョンを導こう

1-1 研究テーマに対して「問い」を立てよう（課題研究メソッドp.44～45）[40 分]。

研究テーマ：

Try 1つのテーマに対して、できるだけ多くの「問い」を立ててみよう。

「問い」の種類	具体的な「問い」
1 言葉の意味や定義を問う「問い」	
2 原因（なぜ）を問う「問い」	
3 信ぴょう性を問う「問い」	
4 比較を行う「問い」	
5 先行研究・先行事例を問う「問い」	
6 影響を問う「問い」	
7 方法や関連性を問う「問い」	

☆課題研究メソッド p.44 の「問い」の例を参考にして考えてみよう。

最も立てにくかった「問い」はどれですか？

それはなぜだと思いますか？

1-2 「問い」を発展させよう（課題研究メソッドp46）[30 分]

Action 1つの「問い」に対して、次の作業を通して深めてみよう。

1. 疑問詞を変えてみる。

〔例〕イチゴはなぜ赤くなるのか？⇒イチゴはいつ赤くなるのか？

「問い」

⇒

⇒

⇒

⇒

⇒

2. 閉じた問いと開いた問いを書き換えてみる。

【閉じた問い】（はい・いいえ）で答えられるような問い。

【開いた問い】具体的に答える必要のある問い。

〔例〕イチゴは赤くなるのか？ ⇔ イチゴはどのようなしくみで赤くなるのか？

「問い」 ⇔

「問い」 ⇔

「問い」 ⇔

3. 「問い」の背景や現状を整理してみる。

〔例〕イチゴは店頭に長い期間並べられない。イチゴは赤くなってから傷むまでが早い。

4. 発展させた「問い」（すぐに答えが見つからない「問い」）を考えてみる。

〔例〕イチゴを長い期間店頭に並べるにあたり、最適な収穫時期はいつか？

☆ 「問い」を発展させる作業をするうえで、「クエスチョンマッピング」という思考ツールを用いてまとめてみるのもよいです（詳しくは課題研究メソッドp47）。

2 先行研究・事例から、現状を把握しよう

2-1 先行研究・事例を探そう（課題研究メソッドp.58～61）[50分]。

TRY リサーチクエストをもとに、キーワードを挙げてみよう。

リサーチクエスト
キーワード

☆先行事例（報告書）を理解するポイント☆

- a 研究・事例の目的は何か？
何を目的としているのか、計画書や報告書などを参照する
- b どのような組織や個人が行ったのか？
目標達成に向けて、どのような組織や個人が関わったのか？
- c どのように目的を達成しようと試みたのか？
目的達成のために、組織や個人がどのような役割を担い、何を行ったのか？
- d 目的はどの程度達成できたのか？
取り組みの結果、どの程度目的が達成されたのか？
残された課題がどの程度あるのか、その理由とともに理解する
- e 現在どのように引き継がれているのか？
先行事例が現在どのようなようになっていて、何を目的として、だれが引き継いでいるのか？

TRY 先行研究・事例についてまとめ、現状を把握しよう。

先行研究・事例のタイトル
《a》リサーチクエストや研究の目的は何か？

《b》 どのような研究方法を用いているか？
《c》 先行研究・事例から学んだことは何か？
《d》 先行研究・事例への疑問点、不足事項は何か？
《e》 そのほか感想など
出典

- Check 集めた先行研究・事例は下のどれに当てはまる？当てはまるものに☑を入れよう
- ☐ Case 1 自分のリサーチクエストに関連する先行研究や事例を見つけられなかった。
 - ☐ Case 2 先行研究や事例について学んだが、理解が難しかった。もしくは理解できない部分があった。
 - ☐ Case 3 先行研究や事例でほぼ同じことが実行されていた。

⇒課題研究メソッドp.61で対策を確認しよう！

1 仮説を立て、調査・実験方法を考えよう

リサーチクエスチョン

□得られた情報（これまでにわかっている先行研究・事例，気づきなど）
＜先行研究・事例によってわかっている（解決している）こと，
わかっていない（解決していない）こと＞

- ・
- ・
- ・

＜該当する先行研究・事例リスト＞

- ・
- ・
- ・

□ 仮説を立てるポイント

① 先行研究・事例から**根拠をもって**仮説を示す
自分の考えだけで仮説を立てず，先行研究・事例を十分に理解したうえで，根拠を示す。

② **複数の**仮説を立てる
複数の仮説を立てることで，リサーチクエスチョンに対して多面的な調査・実験が可能となる。

③ 仮説を**検証する方法**を考える
仮説を検証するために，どのような調査・実験を行うか考える。
※ 複数の仮説を検証するためには，それぞれ異なる調査が必要になる。

□**仮説と根拠**（『課題研究メソッド P.66～』）

仮説 1
仮説を立てた根拠

仮説を検証する方法
①
②
③
検証結果の予想
①
②
③

仮説 2
仮説を立てた根拠
仮説を検証する方法
①
②
③
検証結果の予想
①
②
③

研究の中間報告をしよう

研究のテーマ

1. 要旨（※研究の中心となる内容や主題を短くまとめたもの）

2. 研究背景・目的

3. 研究手法（自分の研究を行うにあたりどのような手段をもちいたか）

4. 結果・考察（夏休み中に行った調査・実験の結果）

5. 結論・まとめ

6. 今後の展望（導き出された結論から今後の研究を深めるために必要なこと）

7. 引用・参考文献

Check 自分の研究を振り返ってみて当てはまるものに☑を入れよう

- ☐ 調査・実験の方法は、仮説の検証やリサーチクエスチョンに適したものになっている。
- ☐ 結果をわかりやすい形（グラフ、表、図、文章など）にまとめている。
- ☐ 調査・実験結果からそれぞれの意味を見出せている。
- ☐ 結果・考察から今後の展望について考えている。

研究計画書に基づいて夏休みを過ごせたか以下に☑を入れよう

- ☐ できた
- ☐ まあまあできた
- ☐ あまりできなかった
- ☐ できなかった